

私にとって作るということは、土を捻り続けることです。単純で地味な作業の繰り返しです。けれど、あわただしく過ごした1日の終わりに、土をただ捻り続ける行為に没頭する時間は、私にとって大切なものです。振り返れば、ずいぶん長い間そんな事を続けてきました。

あたりまえの日常生活を何より大切に愛おしく思っています。けれど時には、息苦しさを覚えます。そうした感情は心の内に楽しげな泡となって浮きあがろうとしたり、あるいは澱のようになって沈殿したり、時間の経過とともに幾重にも重なり私の作る形につながっていく気がします。意志を持つかのような「土」、それを生かす「メチエ」を大切にして息づかいの感じられる「形」を作りたいと手を動かしています。私の作る形が、見て下さる皆様の心の振幅のどこかで重なるならとても幸せです。

ここ数年は、穴窯や野焼きといった炎をダイレクトに感じる仕事にひかれています。炎による思いがけない土の変化を素直に楽しみ、土の仕事を始めた頃のわくわくした気分を思い出しています。

2011年に続き、ここ市之瀬廣太記念美術館で皆様に作品を見ていただけることを感謝しています。まだまだしっかり続けなさいと励ましていただいている様に感じます。ありがとうございます。

2022年10月 小栗 寿賀子



左 展示風景  
中 あなたとわたし 部分  
右 作業風景

